

## 第 201 回 暮らしの SDGs 学習会 議事録

1. **出席者** 増永、吉永、横田、平手（講師）、大塚、小川、前崎、筒井（記）  
傍聴出席：新美様、奥秋様、三好様
2. **日時** 2024 年 8 月 9 日 13:30 ~ 14:30
3. **場所** 流山市 生涯学習センター 3F 第 4 会議室
4. **テーマ** 千葉県温暖化防止活動推進員の家庭のエネルギー使用量調査結果について
5. **講師** 平手 彰氏（OBN 会員 環境管理士 1 級 千葉県温暖化防止活動推進員）
6. **内容** 千葉県温暖化防止活動推進員の家庭におけるエネルギー使用量の調査については、2022 年度分までは千葉県センターでその削減量を調査し、把握して来ましたが、2023 年度分は中止となりました。そこで、千葉県センターの協力を受けて、独自で調査し、纏めた結果が報告されました。
  - \* パリ協定の内容達成には、家庭用の CO2 を排出する化石熱源使用量を 2013 年度比で 2030 年度に 66%削減が必須とされている。調査結果では削減へのロードマップを下回っている。
  - \* 戸建住宅と PV（太陽光発電）戸建住宅、集合住宅の割合が戸建は減少、PV 戸建、集合住宅が増加している。（戸建はエネルギー使用量が多い）
  - \* 住宅種別年間光熱費平均の比較では、PV オール電化戸建が 1 番少なく、次いで PV 戸建、集合住宅、PV 無し戸建となっており、PV 無し戸建は、PV 戸建の倍以上の光熱費になっている。
  - \* 住宅種別消費熱量比較・推移では、戸建と集合住宅では集合住宅のほうが少ない傾向にある。また、全体でここ 3 年間を見ると 3 割近く減少している。
  - \* PV 住宅におけるオール電化住宅の割合は、確実に増加しており、21 年度は 39%だったものが、23 年度は 57%に増加している。また、PV オール電化住宅は、CO2 排出量が非常に少なく、環境に与える影響が少ない。
  - \* 家庭における CO2 排出量を減らすには、環境家計簿を利用し、自宅でのエネルギー消費量を管理することが重要である。なお、節エネと省エネは考え方が違い、細かに電気を消す等は節エネで、エネルギー消費量の少ないシステムや機器を導入するのが省エネである。

### <次回予定>

- 日時** : 2024 年 9 月 13 日（金） 13:30 ~ 15:00
- 場所** : 流山市 生涯学習センター 3F 会議室
- 内容** : Can-Japan の 1.5°C へのアクション連続セミナー（第 1 回）  
（水素・アンモニア、CCS は脱炭素に貢献するか）
- 説明** : 筒井 義憲（OBN 会員）